

平成 20 年度の決算ハイライト

ＪＡたじまの単体決算の概要について

平成 20 年度の主な取り組みとその結果について

< 経済環境について >

一昨年夏頃に表面化したサブプライムローン問題から、国際金融資本市場の混乱とそれに続く世界経済の後退が始まりましたが、昨年 9 月のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけとして状況は一気に悪化しました。特に今回の景気後退は、世界のほぼ全ての地域で「同時」かつ「急速」に進み、わが国の景気に大きな影響をもたらしました。国内経済は昨年春頃より減速傾向を強めてきましたが、特に秋以降からは、輸出や生産がかつてないほどの大幅な落ち込みをみせています。今回の世界経済混乱の震源地である米欧と比較しても、日本経済は大幅に悪化しており、企業収益や家計の雇用・所得環境が悪化する中、内需も弱まりました。

但馬においても、経済の低迷にあわせ少子高齢化に伴う人口減少により地域経済の規模が減少するとともに、消費者物価が低迷し、農産物の販売環境についても大変厳しくなりました。このようなことから、ＪＡをめぐる事業環境は、大変厳しい情勢が続いた一年となりました。

< 事業の経過および成果 >

ＪＡたじまでは、昨年度の総代会で中期計画「Plan 2010」を決議し、『たじまに生きる たじまを活かす』のスローガンのもと、重点的に取り組む課題として『持続可能な農業へ』『ＪＡの活動を通してきずなを強め仲間の輪を広げる』『暮らしの変化・多様化に対応した事業展開』『経営基盤の強化をはかる』の 4 点を設定しました。

また 20 年度は、この 4 点の課題を具体的に取り組むため、課題毎に次のような基本方針を設定して事業の運営にあたりました。

- 生産者組織とともに、生産・販売・購買各事業をリンクさせ、地域ブランドを確立する
- 組合員皆さまの参画を得た、地域ふれあい活動の充実
- 相談機能の充実・訪問活動の強化をはかるなど、事業の質的サービスの向上
- リスク管理の徹底・コンプライアンスの体制の充実による、ＪＡの健全経営

『生産者組織とともに、生産・販売・購買各事業をリンクさせ、地域ブランドの確立をはかる』活動については、少しずつですが着実な取り組みを進めてまいりました。特別栽培米や一部の特産品については、作付面積・部会会員数が増加し部会組織が活性化するとともに、消費者からも好評をいただき、着実に販売数量も増加してきました。また但馬牛については、優秀な血統と産地としての取り組みが評価されたことから、子牛価格が堅調に推移しました。2008 年の全国家畜市場別の和子牛平均価格は、但馬家畜市場が初の日本一となりました。全国的に子牛価格が低迷する中で、但馬牛への地域をあげての取り組みが高く評価される結果となりました。

『組合員皆さまの参画を得た、地域ふれあい活動の充実』では、これまで各地で取り組んできた地域ふれあい活動について、さらに内容の充実をはかりました。以前の活動内容はイベントに傾注していま

したが、平成 20 年度は『企画の段階から組合員が参画すること』と『地域への貢献活動など組合員とともにイベント以外の活動を行うこと』などを課題に取り組みました。社会貢献活動や食育活動などの新しい取り組みが行われ、地域ふれあい活動の今後の方向性を示唆するものと思われる活動もできてきました。

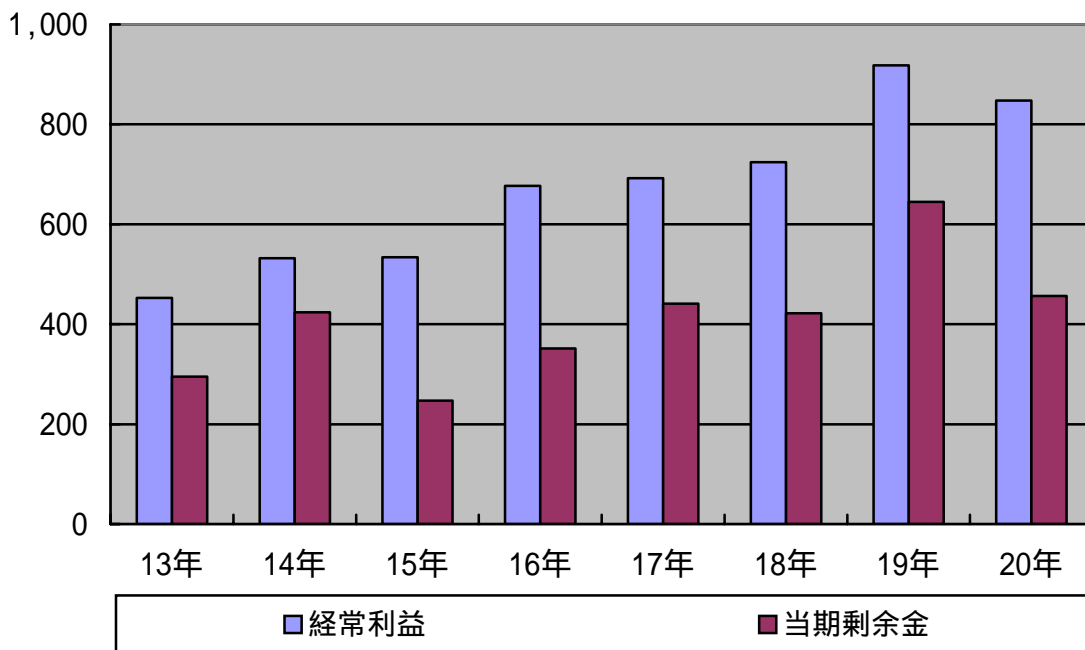
『相談機能の充実・訪問活動の強化など、事業の質的サービスの向上』については、皆さまからJAに対する多様なニーズにお応えすることができるよう、各事業において専任の担当者の育成につとめました。特に金融商品については、商品の内容が高度化・複雑化する中で、『渉外』『融資渉外』『LA（共済の専門外務員）』の体制整備に取り組みました。

『リスク管理の徹底・コンプライアンスの体制の充実による、JAの健全経営』についても積極的な取り組みを行いました。事業環境が大きく変化した年であったことから、財務的な観点からもこれまで以上に健全経営の必要性が求められました。また、平成 20 年度は食をめぐる事件が多発しましたが、農業協同組合として、このような事件が発生しないようリスク管理の徹底にも取り組みました。

これらの取り組みを行いました結果、事業総利益は6,727百万円と前年より若干の減少となりました。また、合理化を進め事業管理費の削減などにも取り組んだ結果、当期剰余金については456百万円となり、こちらも前年より若干減少する結果となりました。

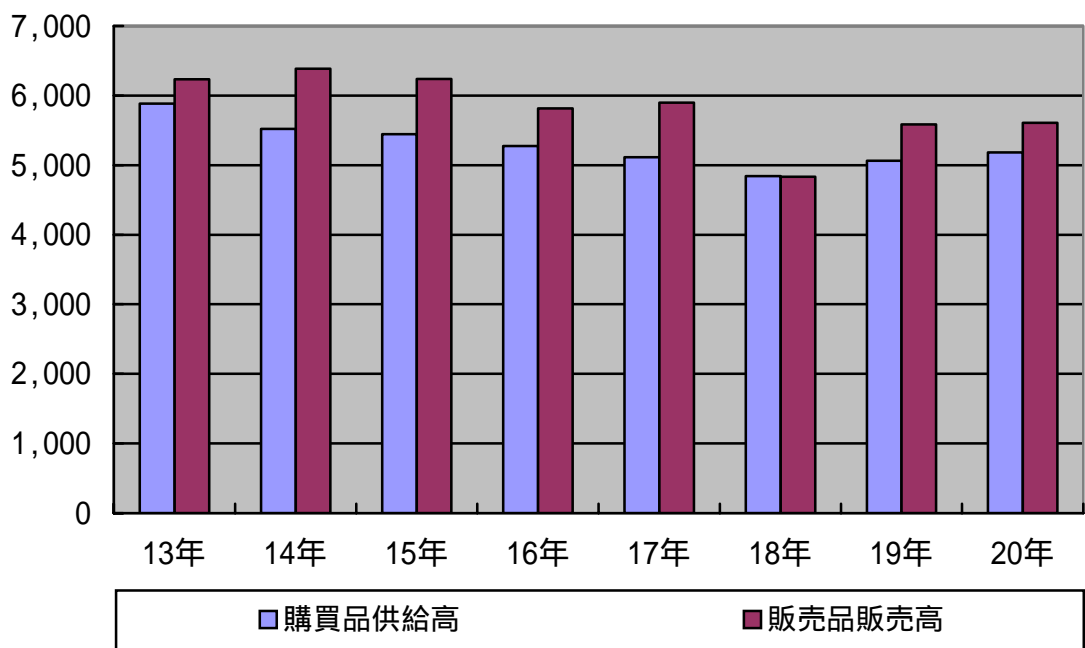
< 業績について >

経常利益・当期剰余金の推移（単位：百万円）

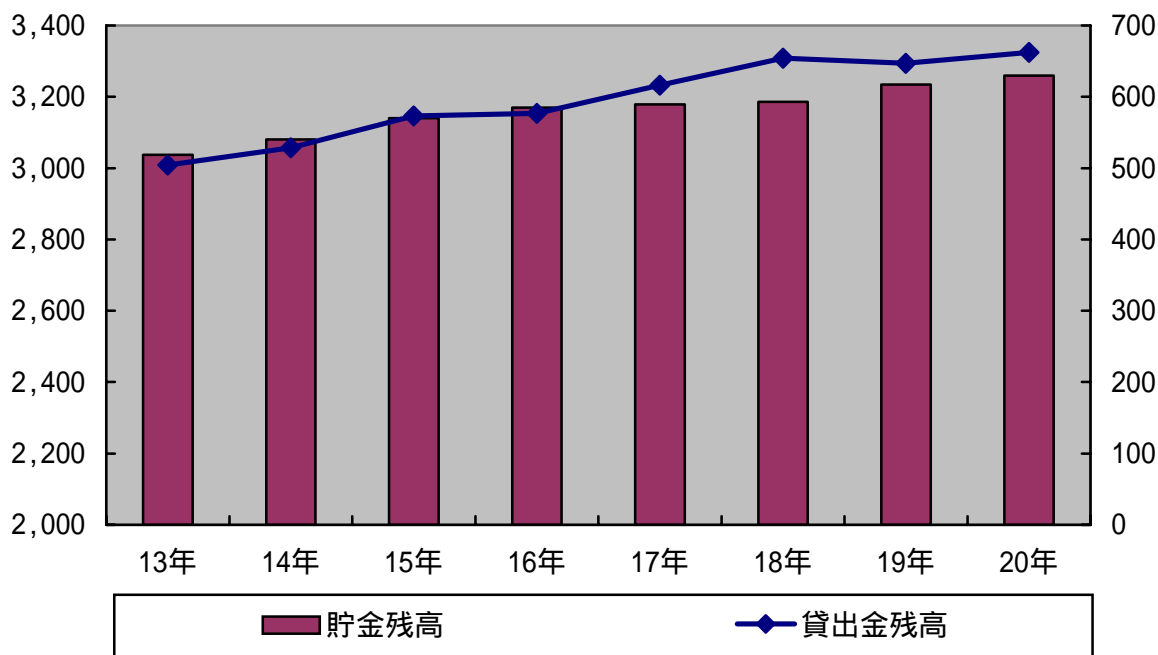


販売高・購買品供給高の推移（単位：百万円）

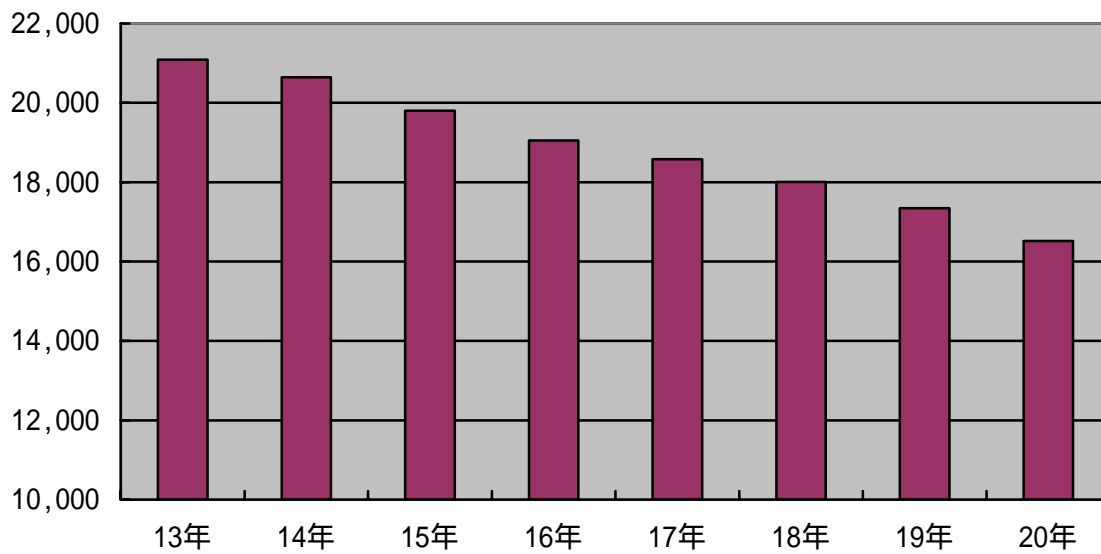
平成 13 年度には、自動車および給油を含んでいません。



貯金・貸出金残高の推移（単位：億円） 左軸は貯金・右軸は貸出金

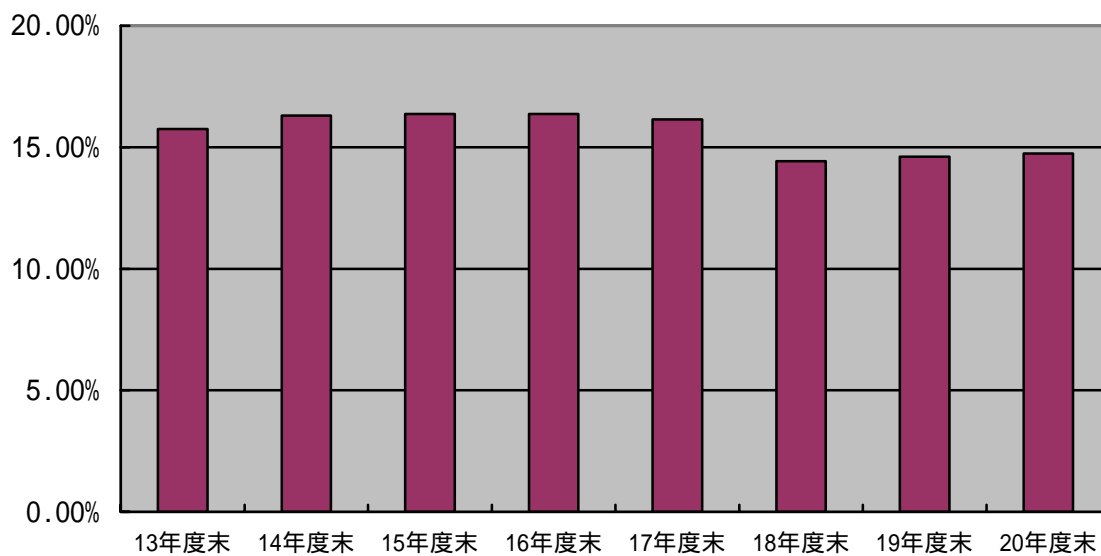


長期共済保有高の推移（単位：億円）



自己資本比率の推移（単位：%）

自己資本比率の算出基準は、農林水産省の告示に基づき、平成 18 年度より新基準（新 BIS 規制）により算出しています。



平成 20 年度トピックス



但馬家畜市場が初の日本一に！

但馬牛の優秀な血統と産地としての取り組みが評価されたことから、子牛価格が堅調に推移した結果、2008年の全国家畜市場別の和子牛平均価格は、但馬家畜市場が初の日本一となりました。全国的に子牛価格が低迷する中で、但馬牛への地域をあげての取り組みが高く評価されました。



村岡米が3年連続「金賞」受賞

米・食味鑑定協会主催の「第10回米・食味分析鑑定コンクール（国際大会）」が11月24～25日、山形県南陽市で開かれ、JAたじま村岡米生産組合の田中敬二さん（香美町村岡区板仕野）が総合部門で最高賞の金賞を初受賞、同組合の森井健一さん（同区萩山）が環境部門で特別優秀賞を受賞しました。同米（コシヒカリ）は3年連続金賞を獲得（昨年、一

昨年環境部門で金賞）とともに、今回2部門受賞の快挙を遂げました。



生野支店 移転・新築オープン

平成20年11月25日、生野支店を移転・新築オープンしました。



竹野支店 移転・新築オープン

平成20年12月15日、竹野支店を移転・新築オープンしました。